



「目分らしいエンディング」  
支援

問 相続・遺言講座の実施状況はどうか。また、高度な医療の恩恵を受けつつも延命治療等で家族が判断に悩む現状を考慮し、リビング・ウィル（自然死＝尊厳死宣言書）講座導入の考えは。（丸山）

答 東日本大震災後に市民から希望が多数寄せられ中央公民館講座で司法書士を講師に開講し、20代から80代までの参加があった。リビング・ウィル講座については市民の希望を聞き検討していく。



エンディングノート



適正な使用が求められる情報ツール

### よりよい 教育を 目指して

◆学校教育現場の真の問題を見誤るな

問 市内の中学校で教師が携帯電話を不適切使用した事案があったばかりだが、生徒が試験の解答を携帯電話のメールで教えてお金を取っているとの情報があった。携帯電話の扱いにルーズな学校環境を教師がつくってしまったのではないか。学校では携帯電話は原則使用禁止という基本の約束事を教師が自ら守らないでどうするのか。一見小さな事でも積み重なると学校全体の規律の崩壊、さらには犯罪にさえ繋がりかねない。学校長や

教育委員会が現場の真の問題に気がつかないのは怖いことだ。（青柳）

答 今回の事案を踏まえ、人権感覚や情報モラルの点で、日ごろの教育指導上の問題がなかったか自己評価を行い、職員研修を徹底していく。

◆吉田原保育園の改築は

問 吉田原保育園改築の計画はどこまで進んでいるか。定員や改築時期についての考えはどうか。（柴田）

答 定員や施設配置など施設整備のあり方を検討する概要設計を本年度中に行う。区内の入園児童数の推定や来年度の入園申込み児童数などから定員の検討を進めていく。

◆給付型奨学金について

問 OECD加盟国の内、授業料が無償でないうえに給付型奨学金が無いのは日本だけ



吉田原保育園



である。貧困と格差が広がり卒業後の不安が広がる中で、給付型奨学金の実現が待ったなしの課題となっているが制度創設の考えはないか。（柴田）

答 本市で給付型を導入するには、一般会計からの繰出しなど多額の財政負担が生じると共に、選考基準などの公平性を担保する仕組みなどの課題がある。国の動向を見ながら研究したい。

